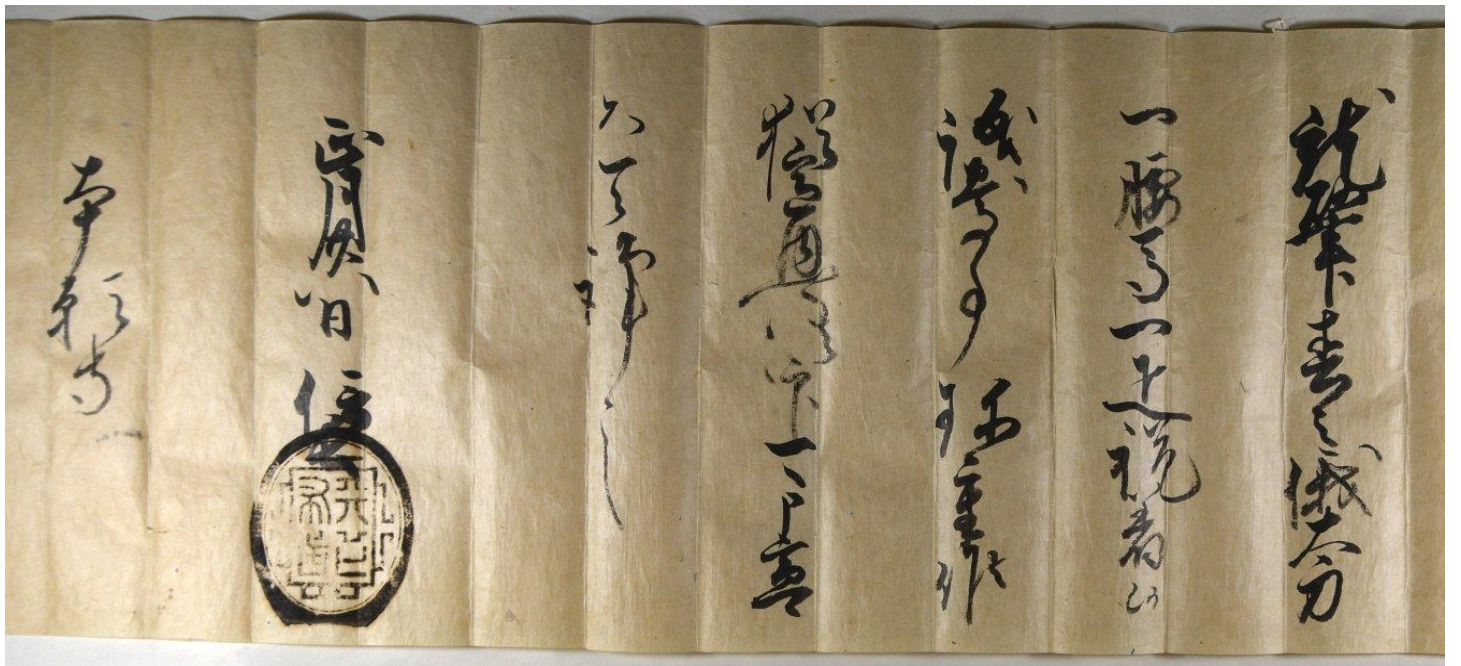


④〔織田信長黒印状〕

天正9（1581）年カ正月28日

初春の祝儀として本願寺から織田信長に贈られた太刀・馬に対しての礼状です。松井友閑まつい ゆうかん（生没年不詳）が信長の使者として取り次ぎを行っています。松井友閑は、織田信長の家臣で、大坂の本願寺や京都・畿内の寺社との交渉に当たっていた人物です。この文書の該当年次は、信長が本願寺と和睦した、第1次和睦の天正元（1573）年、第2次和睦の天正4年、第3次和睦の天正9年・10年のいずれかで、おそらく天正9年と推定されています（青木裕美「八木家文書とその伝来について」）。

八木健次家文書 P09702 No. 1592-10



【史料④】〔織田信長黒印状〕（年未詳）

（包紙ウハ書）

「本願寺 信長」

（切封墨引）

〔釈文〕

就^ニ肇春之儀^一、太刀

一腰・馬一疋祝着候、

誠慶事、珍重候、

猶宮内卿法印可^ニ申宣^一候、

恐々謹言

正月廿八日 信長（黒印）

本願寺

〔読み下し文〕

肇春（ちようしゆん）の儀につき、太刀

一腰・馬一疋祝着（しゆうちやく）に候、

誠によるこばしき事、珍重に候、

なお宮内卿法印

申しのぶべく候

恐々謹言

正月廿八日 信長（黒印）

本願寺